

令和元年度中国・遼寧省派遣交流職員レポート③
～中国・東北地区の観光名所～

你好！こんにちは！今回は、中国の東北地区についてご紹介します。遼寧省、吉林省、黒龍江省の3つの省で構成される東北地区は、中国最後の王朝・清の発祥地であり、近代においては日本の中国侵略の足掛かりとなった重要な地域でした。1932年から1945年まで「満洲国」として日本によって支配されたため、戦前生まれの日本人の中には満州出身の方もいます。地理的には朝鮮半島やロシアと接しているため、日本・朝鮮・ロシアの影響を受けた一方、清朝を興した少数民族・満州族の習俗も融合して、この地域独特の文化を形成しています。



東北地区の特徴として、朝鮮半島に起源を持つ少数民族・朝鮮族が集住していることが挙げられます。中でも吉林省に人口が集中し、特に延辺朝鮮族自治州に朝鮮族が多く住んでいます。自治州の様々な場所に漢字とハングルが併記されており、首府（州都）の延吉市には、中国語と朝鮮語で教育を行う延辺大学が設置されています。

東北地区の方言である東北話には、日本語やロシア語に由来する語彙があります。例えば、「马葫芦 (mǎ hú lu)」はマンホール、遼寧省大連市の方言で「晚霞子 (wǎn xiá zi)」はワイシャツという意味で、日本語からの音訳です。また、「列巴 (liè bā)」はロシア語の「フリーエーブ」という単語に由来しており、パンという意味です。この他にも、ロシアと隣接した黒龍江省には、ロシア語由来の方言語がたくさんあるそうです。

さらに、中国で広く食べられている「沙琪玛 (shā qí mǎ)」というお菓子は、満州族発祥と言われています。油で揚げた小麦粉の生地に、ゴマやドライフルーツ、ナッツ等を入れて、飴や蜂蜜とからめて乾燥させたお菓子です。見た目は和菓子のおこしのようなのですが、ふわふわと柔らかい食感でおいしいです。

これまでの記事では、遼寧省の観光スポットを中心に取り上げましたが、今回は足を伸ばして吉林省と黒龍江省の見どころについてご紹介いたします。



○長白山（白頭山）

長白山は、中国吉林省・延辺朝鮮族自治州と朝鮮民主主義人民共和国にまたがる標高 2744 メートルの火山です。白頭山とも呼ばれ、朝鮮民族から聖なる山として崇められてきました。有名な朝鮮民謡『アリラン』においても、白頭山が歌われています。東北地方を流れる松花江や、中朝国境となる鴨緑江と豆満江も、長白山を水源としています。

私は 2019 年 9 月に長白山を訪問しました。ちょうど黄葉の真っ盛りで、山頂へ向かう車中から黄色に染まった山麓の景色を楽しめました。中国の旅行者はもちろん、朝鮮民族のシンボルであることから韓国人観光客の姿も多く見かけました。長白山の観光客向けのスポットでは韓国ウォンで支払いできる場所もあり、私自身が韓国語で話しかけられる場面もありました。



長白山の観光案内図



記念品として売られている北朝鮮の通貨

最大の見どころは、山頂にあるカルデラ湖の「天池」です。南北 4.4 キロメートル、東西 3.3 キロメートルの大きさで、平均水深 204 メートル、最深部で 373 メートルにもなる中国最大の火山湖です。湖の外周は 13.1 キロメートルで、標高 2500 メートルを超える 16 の峰に囲まれています。

長白山観光のベストシーズンは 6～9 月頃です。夏は高山植物が咲き乱れ、9 月には黄葉が楽しめます。但し、現地ガイドによると、長白山は天気が非常に変わりやすい上にたびたび霧が発生するため、天池を見られるどうかは運次第だそうです。私が訪問した当日は幸いにも晴天で、雲海と山と湖を同時に望むことができました。

天池の水は澄みわたり、湖面は深い青緑（ターコイズブルー）に輝いていました。青空と白い雲海、岩がちで黒っぽくゴツゴツした山にぐると囲まれて、吸い込まれそうな青を湛えた天池は、色彩のコントラストが見事で、写真を撮る手が止まらない絶景でした。私が訪れた日は、湖面は青一色に見えましたが、日によっては水面に周囲の峰がくっきりと映し出されることもあるようです。古来より人々の信仰を集めてきたことにも納得がいく、神秘的かつ幻想的な光景でした。

私が住む遼寧省瀋陽市から長白山まで車で片道 6 時間かかり、外国人観光客にはアクセスが不便ですが、中国・東北旅行の際には是非訪れてほしい場所の 1 つです！



長白天池付近のパノラマ（雲海と青空）

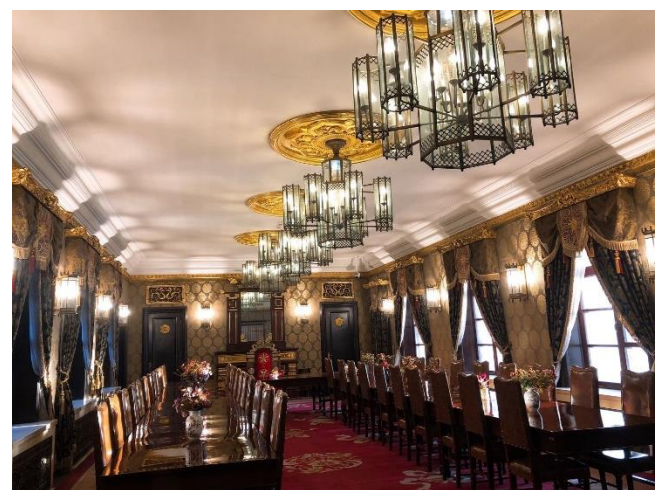
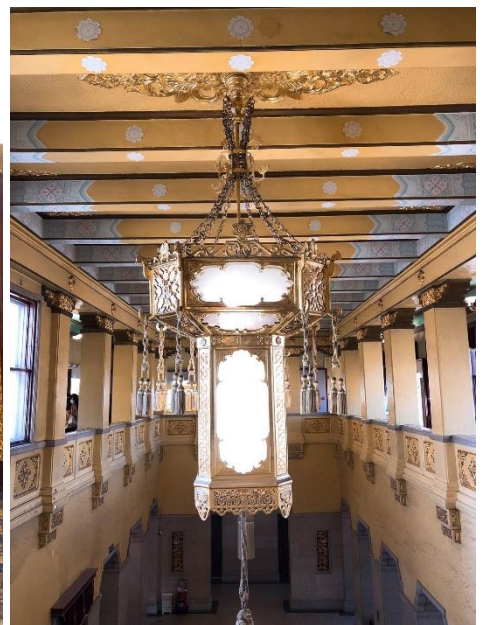


青い宝石のような長白天池

○吉林省長春市

かつて東北地区は、日本の傀儡国家と言われる「満洲国」が存在しました。1931年の満州事変を契機に東北地区を占領した日本によって、清朝最後の皇帝・溥儀（宣統帝）を元首に迎えて満洲国が打ち立てられました。日本人・漢人・朝鮮人・満州人・蒙古人による五族協和と王道楽土を建国理念として掲げていましたが、実際には日本、特に関東軍と南満州鉄道（満鉄）の強い影響下にありました。なお、中国政府は満洲国を独立国家として認めていないため、「偽満」「偽満洲国」と呼称しています。

東北地区一帯に当時の日本によって建設された遺構が残っており、その一部は取り壊されず現在もそのまま利用されています。特に、現在の吉林省の省都である長春市は満洲国の首都「新京」に当たり、当時の史跡や建築物が数多く残されています。中でも、満洲国の宮殿の遺構「偽満皇宮博物院」が長春観光における一番の見どころです。満洲国皇帝に即位した溥儀は、在位期間の大半をここで過ごしました。皇帝の玉座や執務室はもちろん、溥儀が普段生活していたスペースも当時の状態で保存・復元されています。館内には溥儀の半生の紹介や満洲国関連の資料が展示されており、一日見て回っても飽きません。敷地内には大きな乗馬場や、日本風の庭園、コンクリート造りの防空壕などがあり、往時を忍ばせませす。



偽満皇宮博物院の内装及び展示（左下写真の中央に立つ眼鏡と背広姿の男性が溥儀）

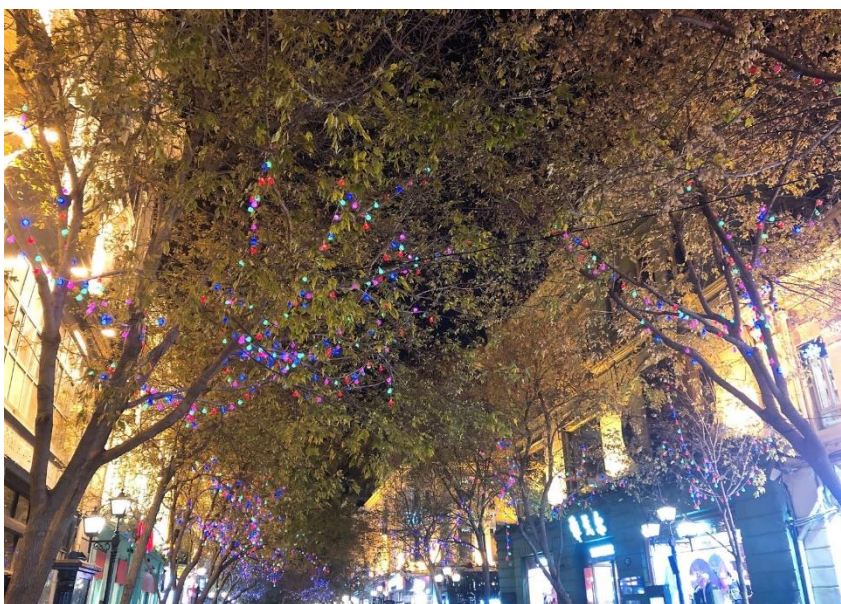
他の遺構としては、満洲国の最高行政機関が置かれていた中洋折衷様式の建築「偽満洲国務院」があります。日本の国会議事堂のような外観で、現在は吉林大学医学院として使われています。また、現在の吉林省共産党委員会は、かつての関東軍司令部の建物をそのまま使っており、日本の城の天守閣のような建築があります。中国において日本式の城郭が見られるのはおそらくここだけであり、とても目を引きま

○黒龍江省ハルビン市

ハルビンは、中国で最も北部に位置する黒龍江省の省都です。19世紀末までは寒村でしたが、1896年に三国干渉の報酬としてロシアが清から東清鉄道の敷設権を獲得すると、ハルビンは鉄道建設の基地として開発され、瞬く間に近代都市へと変貌しました。中露国境の黒龍江（アムール川）最大の支流である松花江が流れており、ハルビンは水陸交通の要地としても発展しました。市内には現在もロシア風の建築物が残されており、「東方のモスクワ」「東方の小パリ」と呼ばれています。

ハルビンの見どころは市街区に集中しています。代表的な観光スポットは「中央大街」と呼ばれる目抜き通りです。20世紀初頭からロシアによって開発されたため、ロシア語で「キタイスカヤ（中国街）」と呼ばれていました。石畳の道にロシア風の歴史的な街並みが残っており、お洒落なカフェやロシア料理店もあります。現在はハルビンを代表するショッピングストリートとなっており、多くの人でにぎわっています。

名物は、代表的なロシア建築である馬迭尔宾馆（モルデンホテル）の横で販売されるアイスクャンディーです。私も10月末にハルビンを訪問した際、このアイスを食べたところ、さっぱりとしたミルク味でした。東北地区特産の榛子（ヘーゼルナッツ）を使ったアイスクャンディーは、よりミルク感が強く濃厚な味わいでした。マイナス20～30度に達する冬のハルビンでは、外でアイスを食べても溶けません。モルデンのアイスは季節を問わず飛びように売れて、中央大街を食べ歩く人の姿をよく見かけます。



中央大街の街並み



モルデンのアイスクャンディー



ハルビンを代表するロシア正教協会「聖ソフィア大聖堂」

もう1つ有名なロシア関連の建築物は「聖ソフィア大聖堂」です。1907年に創建されたロシア正教の教会で、独特のドーム屋根が目を引きまます。ハルビンに現存するロシア風建築の代表格です。建物内部は建築美術館になっています。日中に訪れて建物内外を見学するのも良いですが、夜のライトアップされた姿も美しいです。中央大街の程近くにあるので、併せて訪問するのがおすすめです。

ハルビン最大のイベントとして外せないのが、毎年1～2月に開催される冰雪节（冰雪祭り）です。札幌の雪まつりと並び、世界三大氷祭りの1つに数えられます。春節（旧正月）の休暇と重なるので、多くの中国人観光客が押し寄せます。郊外の公園内に冰雪でつくられた彫像が立ち並び、夜にはライトアップされて幻想的な雰囲気です。会場は屋外でとにかく寒いので、スマホやカメラも保温しないと、すぐ電源が落ちて使えなくなるそうです。防寒対策をしっかりと、一度訪れてみたいですよ！



以上が、中国・東北地区の有名な観光スポットです。中国の多数派である漢民族文化とは趣を異にした朝鮮・満州・ロシア関連の見どころを中心に紹介しました。多民族の文化が融合した東北地区に是非遊びに来てください！